

御宮再興のための試行

—香椎宮を中心に—

Trials for rebuilding the shrine
—On the theme of the Kashiigu—

ソーシャルデザイン学科

井上友子

Tomoko Inoue

1. 背景

本論は、研究者が数年にわたり取り組む神社の再興に関する研究の一端・「香椎宮」を一例に述べるものである。

香椎宮は、724年（神亀元年）に創建され、仲哀天皇・神功皇后の神霊を祀り、かつては「香椎廟」「櫛日廟」と称された歴史ある神社である。現在でも、本宗の伊勢神宮を除いた日本国内にある16の勅祭社（賀茂別雷神社・賀茂御祖神社をそれぞれ1社ずつ数えた）の1社であり、九州・沖縄地域では宇佐神宮にならぶ勅祭社され、現在でも10年に1度天皇の勅使参向が行われている。

1871年（明治4年）に制定された「神社の格に関する制度」において、香椎宮は日本にある8万社の中から官幣大社62社のひとつに選ばれ、九州・沖縄地域で選出された9社のうちの1社となった。1946年（昭和21年2月2日）、国家が神社を管理する「近代社格制度」が廃止された後も、香椎宮は人事上特別な扱いを必要とする神社「別表に掲げる神社」として、九州・沖縄地域の「別表61社」のひとつに挙げられた。

香椎宮で行われる「勅祭齋行」のもっとも早い例は737年（天平9年）まで遡り、1925年（大正14年）の齋行からは上述したように10年に1度と定められた。近年では平成27年に齋行が執り行われ、奈良時代から数え139回目となった。

『日本書紀』や『古事記』などにも詠われている香椎宮「本殿（棟札8枚を含む）」は、1801年（享和元年）に再建され、1922年（大正11年4月13日）にわが国の重要文化財に指定された（棟札指定は1966年/昭和41年6月11日）。また「幣殿」「拝殿」のほか、「武内神社」「巻尾神社」（境内摂社）、「稲荷神社」「鶏石神社」（境内末社）、「濱男神社」「御島神社」（境内外末社）など多くの摂末社を擁する懐の深い神社である。さらに、全国の勅祭社のうち、香椎宮にのみ存在する「勅祭」に関する文化財「参拝標石」や、仲哀天皇の営んだ仮宮「櫛日宮（詞志比宮・古宮）」の伝承地である「廟跡」、神功皇后が三韓征伐から帰国した際に埋めたとされる剣・鉾・杖の三種宝、皇后が鎧の袖に挿していた杉枝を本朝鎮護祈願で植えたものとされる「綾杉」、仲哀天皇・神功皇后に仕えた武内宿禰が使用し300歳以上の長寿を全うしたとされる「不老水」など、香椎宮は多くの故事・寄譚を偲ばせる学術的背景を担う。

一方で、運営上には大きな問題を抱えている。正月三が日を含む「香椎宮」の年間参拝者数は10万人を下回り、近隣で同じく官幣大社に数えられた「宮崎宮」の50万人、2017年にユネスコの世界遺産に登録された官幣大社「宗像大社」の65万人、有数の観光名所として知られる官幣中社「太宰府天満宮」の204万人とくらべその差は歴然としているのである^(註1)。

(注1)【参拝客データ】

〈太宰府天満宮〉 https://sp.jorudan.co.jp/newyear/rank_visitor.html

〈宗像大社〉 http://jinjain.jp/modules/contents/index.php?content_id=186

〈宮崎宮〉 https://sp.jorudan.co.jp/newyear/spot_0183.html

〈香椎宮〉 香椎宮権禰宣談

参拝者が少ない理由の一つに、香椎宮の所在地を示す案内表示が整備されていないことがあげられる。近隣公共交通機関で最も乗降客の多いJR香椎駅にも香椎宮の所在を示す看板はなく、勅使道とも呼ばれる参道にも香椎宮への案内表示はない。代わりに「官幣」の文字がコンクリートでぞんざいに塗りつぶされた石碑が異様な存在感で参道入り口に建つ^(注2)(図1)。参道を700mほど進むと、左手に物寂しい香椎宮が現れるが、その神社が深淵な歴史を担い、かつては高い社格であったことなど近隣住民すら知らされていない。その結果冥加金や初穂料も低く、休憩所や関連施設の老朽化は放置され、境内は常に寂寥とした暗鬱な雰囲気包まれているのである。



図1 参道入り口石碑

2. 目的

研究者は2008年より本学芸術学部生活環境デザインおよび写真映像メディア学科の教員とデザインの方法論や知識を用いた地域貢献活動を続けてきており、低迷する伝統的工艺品に関わる企業

や地元の零細企業・各種団体・行政から高い評価を得、それらに関連する事柄が新聞・ラジオ・テレビ等に掲載・放映・報道されることで対象企業や団体に対する市民の関心をも喚起してきた。

本研究では、それら経験に基づくデザイン方法論と地域貢献に関する知識を本神社の再興活動に用い、悠久の歴史・伝統をもつ「香椎宮」に本来備わっている正当なる実在感を取り戻し、重厚感を保ちつつこれまでとは異なった印象をも与えるイメージ作りに戮力し、それらを広く伝達することで活性化をうながし、最終的には経済的な再興に助力することなどを目的としている。

また、2019年度からは、研究者と同じ学科に属する教員の協力も得て、拡散力の高いイベントやソーシャルネットワークを積極的取り入れ、より進展的な研究を推進する予定である。すなわち、地域ブランド力と情報伝達力による総合的デザイン力により、香椎宮の「暗鬱」「寂しい」というマイナス要素を、伝統と歴史を担う「重厚感のある佇まいの由緒ある神社」というプラス要素のイメージに転換し、香椎宮およびその周辺の朽ち掛けた環境に活気を取り戻すことが本研究の目的である。

3. 着想に至った経緯と2018年度に実施された計画

本研究が着想され、実施の運びとなった経緯は以下のようなことである。

研究者は、5年前より久留米にある「八女福島八幡宮」の放生会で行われる奉納行事への支援活動を芸術表現学科教員とともにに行っている。「八女福島八幡宮」では重要無形民俗文化財の「燈籠人形芝居」が細々と演じられてきたが、江戸末期の緊縮財政や昭和の2度の大戦により人形・大道具・小道具などの破損や逸失が甚だしかった。そこで、歴史調査とともに日本画技術を用いて人形芝居の舞台背景幕修復を開始し、毎年マスコミにも取り上げられている(図2)。研究者は本活動が、神社の祭事再建に寄与し、神仏奉納の行事が

(注2) (図1) 1946年(昭和21年)の連合国軍最高司令官総司令部の神道指令により、石碑に彫られた社格標がセメントで埋められた

30.9.12(水) 西日本 カラー



図2 八女福島燈籠人形背景幕新聞記事/
西日本新聞 H.30.9.12(水)

歴史的に重要な位置をしめることを知らしめ、それらが広報された際に地域住民の地元への愛着精神を育み、街の活性化に繋がること、また、日本画専攻の学生の構図研究や技術の習得に実践的経験となり、とりわけ、重要無形民俗文化財の保護と継承に大きく寄与することなどを体感している。

この経験をもとに、本学近隣の「香椎宮」の寂々たる状況に芸術学部のデザイン力を用い、貢献することを思いついた。

「香椎宮活性化計画」は3年前に演習授業として立ち上がり、次第に周囲の理解が得られ、実施に至るようになった。「香椎宮」は、前任の宮司の意向で宣伝が禁じられ、かつての「官幣大社」、現在の「別表に掲げる神社」、またわが国に16社しかない勅祭社のうちのひとつであることが忘れられたような影の薄い存在になっている。しかし、現宮司が昨今の「香椎宮」の貧窮を直視し、代表者の提案する活性化計画に協力的になり始めた(図3)。多くの参拝者を受容しうる優れた資質を備え、歴史と伝統に裏づけされた重厚な雰囲気をもつ「香椎宮」の魅力や、10年の地域貢献の経



図3 2018年9月17日 香椎宮宮司・権禰宜・福岡市職員を招いたプレゼンテーション

験、6年目を迎えた神社支援経験に基づくデザイン力を用いた再生とイメージ変革をもって、さらにソーシャルネットワークを通じてそれらを広く周知・伝達する環境がすべて整ったことなどが本着想に至った経緯である。

2019年(平成31年)は、皇位継承が行われ、改元という歴史的な年となる。いわば千載一遇ともいえる瞬間に、勅祭社・香椎宮の尊厳を取り戻し、平安時代末期以来の歴史と伝統とともに新たな時代に即したイメージを後世に受け渡すことに貢献できれば幸甚であるとも考えている。

4. 2019年度以降の研究計画

前述のように、研究者は「香椎宮」の再興に関する研究を3年前よりはじめており、準備を進めてきた。2018年4月からは香椎宮や福岡市東区役所、香椎商工会連盟などの賛同・協力・強い後押しを得て、準備から実行段階へと一気にステージを上げた。

以下の表は、本研究ですでに実施された計画をベースに今後実施することが予定されている3年間の計画(全体像)をおおよその時期別に示すものである。

なお、2018年度までの実施にかかる計画遂行は学生を動員した授業プログラム形式をとったソーシャルデザイン教育の教材にも活用しており、今後もその予定である。

研究の全体像	
I. 香椎宮および関係各社の歴史の発掘・整理・公開	
①情報調査・収集 ②整理・公開	
①2019～2020 ②2021	香椎宮には公報されていない埋もれた情報があり、また案内されていない境内摂社・末社、境内外の末社などとの関係性や伝説などもある。これらの情報を調査・収集・整理・公開する。
II. 境内外・参道沿線の印象深い場所・モノ・コトの調査・紹介マップ	
①フォーマット作成・情報収集 ②情報整理・リーフレット作成	
①2019～2020(前半) ②2020(後半)～2021	参拝を目的とする訪問者だけでなく、散策や逍遙を目的とする訪問者数を増加させるため、参道を中心とした周辺地域の裏通りの・サブカルチャー的情報を収集し、リーフレットにまとめ、香椎宮および参道の商店に配備する。
III. 参拝客誘致のための周辺整備および初穂料収入品の整備	
①香椎宮前駅および西鉄香椎駅からの案内板設置準備および設置 ②受託品アイテム考案およびモデル製作・提示	
①2019～2020 ②2019～2021	香椎宮の所在を明確にし、参拝客を増加させる施策を行う。周辺の公共交通機関から香椎宮までの案内板を設置し、これまで不明であった距離感を明らかにすることで、特に高齢者や子供連れなどの訪問者の心理的負担を軽減する。新たな受託品案の提供により初穂料増加に貢献し、老朽化した施設や境内整備の改善を支援する。
IV. 参拝客以外の来観者を誘致するためのイベントの開催	
①3年間を通じた活動：アート・ワークショップ、アート・デザイン系のプロジェクトマップ	
①2019～2021 (3年間実施)	境内の施設を利用したアート・ワークショップやアート・デザイン系のプロジェクトマップを行い、参拝者以外の来訪者を増やす。ワークショップでは未就学児童から若い主婦層にいたるまで参加可能な染染・抜染の講座を開催し、神社を訪れる機会を作る。プロジェクトマップは、香椎宮の品位を貶めず、静寂な雰囲気汚さないような環境系コンテンツを作成し放映する。放映は、比較的平面を備えた構造体を利用し、楼門・中門のような屋外では1万ルーメンのプロジェクター1台を、勅使館・絵馬殿・奏楽殿などの半屋内では4500ルーメンのプロジェクター複数台を用い明るさを確保する。音響については、静かな環境音や音楽を流す。

5. 課題

研究者が所属するソーシャルデザイン学科で行う研究や教育は、問題の発見・解決のための方法論模索・着想・ブランディング・計画・実施・結果公表までを一貫したサイクルで行うことが求められている。本学科の基本コンセプトは、「ヒトと社会の未来を、みんなでデザインする一人と社会の課題を解決するデザイナー」であり、4つのPR項目中の③独自性として「“みんなでデザイン”することを前提とした演習・実習カリキュラム」が掲げられている。すなわち、一人で考え・完結するという単独作業ではなく、複数の人間が関与し、社会に貢献するためのもっとも良い方法やシステム作りを模索し実行に移すことがモットーとされているのである。

しかしながら、既存のデザイン研究やデザイン教育では、大きなプロジェクトでない限り、ほとんどの場合単独作業による単独成果が求められ、単独デザインに対する評価が下されがちである。それゆえ、これまでのデザイン教育システムや評価の中では、いささか戸惑うケースにも遭遇する。

たとえば、シラバスを中心とした正課教育メニューの中では、複数の学生が分担・協力し、総合的に作り上げることは珍しかった。しかし、一方で、本学が進めるプロジェクト型教育の手本ともいえる正課外で行われる活動には、他学科、他専攻の学生がチームを組み協働・分担作業を行うことは自然の成り行きだった。すなわち、本学科の掲げるモットーでは、正課外プロジェクト活動で取り入れてきた考え方・計画・実施方法・解決方法・評価方法を授業に取り入れることが至極当然のように思われるのである。

6. まとめ

2018年度の「八女福島灯籠人形舞台背景幕製作事業」や「香椎宮の再興」活動はおおむね順調に進行中であるため、本原稿を執筆している「現時点」では、前者においても途上段階にあり、後者の場合は特に、結果を出していない途中経過のプログラムがほとんどである。目下のところ、2018年11月10日(土)に香椎宮境内・勅使館前において、香椎宮を映した古の写真を展示し、か

つて行われていた野点のお茶会を再現する「来しかたの香椎を映やすお茶の会」を成功裏に導くことが求められている（図4、5）。

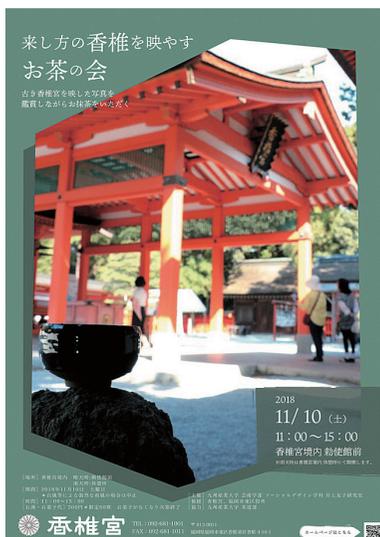


図4 2018年11月10日(土) 香椎宮で開催される野立お茶会の告知用ポスター

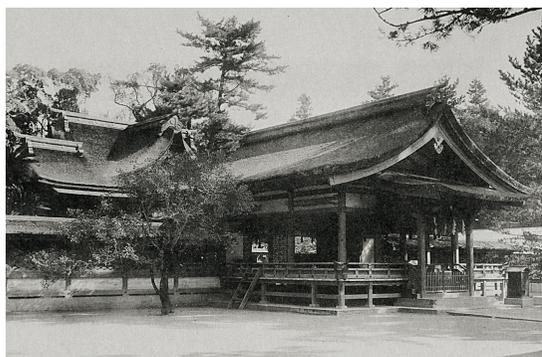


図5 昭和15年当時の香椎宮本殿

以下の表は、《2018年10月時点で遂行中の計画》および《2019年度以降予定されている計画》である。

〈準備状況〉	
2018年10月時点で遂行中の計画	
①	「JR香椎駅」「JR香椎神宮前」から「香椎宮」までの案内表示（サインボード）の配備
	2018年度未完了予定
②	お茶会再現
	2018年11月10日(土)実施決定
③	1/250スケールの境内ジオラマ製作
	2018年度末簡易モデル完成予定
④	初穂料用品の一部提供
	受託品「綾杉プレスレット」およびパッケージ完成予定
⑤	歳次ポスター3点製作
	境内の四季を映す画像とコピーライトによるイメージづくりのポスター2018年度未発表予定